

二〇二五年度

人文社会学部

学力試験

記述式総合問題

試験開始の合図があるまでに、次の注意事項をよく読んでください。

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 二、机の上には、受験票・鉛筆・シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り（電動式は除く）・時計（時計機能だけのもの）・眼鏡以外のものは置かないでください。
- 三、問題・解答用紙の両方に必ず受験番号・氏名を記入してください。提出の前には記入漏れがないか再度確認してください。
- 四、問題は一問です。（三〇〇字以上）
- 五、試験中に問題冊子の印刷不鮮明・ページの落丁・乱丁に気付いた場合、また問題の内容について質問などのある場合には、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 六、問題冊子の余白等は適宜利用して構いません。
- 七、配布された問題・解答用紙は試験終了後回収しますので、持ち帰らないでください。

◇携帯電話は、電源を切ったうえで鞆の中に入れてください。

志望学科・コースの上枠に○をつけてください（第一志望のみ）

受験番号	
氏名	志望学科・コース
	小学校・特別支援コース
	経営コース
	保育・幼稚園コース
	トレーナー・スポーツ経営コース
	福祉コース
	観光経営学
	メディア文化コース
	グローバルコミュニケーションコース

【問題】 次の文と図から、「人間関係を強くすること」について、あなたの経験を踏まえ、考えを二〇〇字以上で述べなさい。

世代を超えた先輩・後輩との関係のことを、僕は「ナナメの関係」と呼んでいます。その地域に住んでいるおじさん、おばさんとの関係や、おじいちゃん、おばあちゃん、兄弟との関係などがそうです。

教師と生徒の関係は「タテの関係」、親子の関係も「タテの関係」、それに対して、同世代の友だち同士の関係は「ヨコの関係」。それらと区別しているのです。

「タテの関係」は基本的に上下がはっきりしていますから、君は従うか反発するか二者択一になりがちで、コミュニケーション能力を鍛えるにはあまりふさわしくありません。

「ヨコの関係」では、興味のあるタレント、テレビや部活の話に花が咲くでしょう。親友には、好きな人のことや悩みの相談もするかもしれません。

しかし、友人との会話は、チャットのような独り言の応酬になりがちなことに君自身は気づいていましたか？

独り言の応酬というのは、合間合間にひたすら自分の話をしていくような会話のことを指します。「昨日、このテレビ見た」と友人が言うと、君が「僕はこっちを見た」と、自分のしたことや感想を独り言のようにつぶやくマナーで会話が続きますよね。これだと、相手を傷つけてしまう心配がないので仲良しを続けるには好都合なのですが、コミュニケーション技術を高めることにはならないのです。

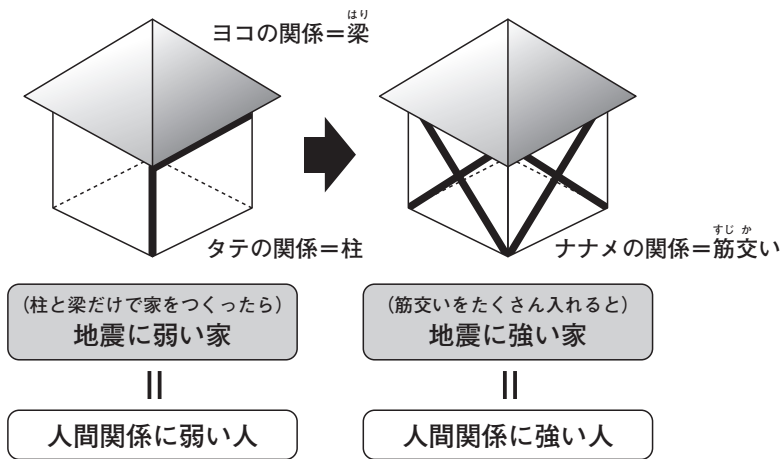
友だち同士のシチュエーションでは、意見を戦わせるようなこともないでしょう。

情報編集の核となるコミュニケーション能力を伸ばすのは、「ナナメの関係」の第三者との会話です。親子やよく知ってる先生とも違うし、友だちでもないから、相手のアタマのなかにある情報を想像して会話しないと理解しあうことができません。

相手のことがわからないから、どういう切り口でコミュニケーションし、どういう切り口で関係を結ぶかを試行錯誤せざるをえない。だから、「ナナメの関係」の知り合いが豊かになると、君のコミュニケーション能力を向上させる機会も豊かになることとなります。

(中略)

「ナナメの関係」の大切さは、家づくりに例えるとわかりやすいと思います。図表を見てください。



藤原和博「10年後、君に仕事はあるのか？」ダイヤモンド社

